

井戸の掘削や水道施設工事、地質調査などを手掛ける赤坂ボーリング(尾道市)のテレワークの取り組み事例を紹介し
ます。実施状況やメリットなどを代表取締役の赤坂雅士さんに聞きました。

株式会社赤坂ボーリング(尾道市)

井戸の掘削 クラウドで連携



代表取締役
赤坂雅士さん

一どのようなテレワークを取り入れていますか。

総務部の従業員が、コロナ禍をきっかけに2020年から、週1.5日の在宅ワークに取り組んでいます。クラウドやビジネスチャットツールを活用し、県内外の現場、事務所と連携しながら請求書や見積書、報告書などの作成をしています。

井戸を掘削する業務においては、手掛けてきた約3千件の掘削データを地図と連動させてクラウドに保存することで、掘削深度や水質を予測する上で必要な情報を現場にしながら活用できるようにしています。

また、現場での状況判断に困った時は、より経験値の高い人とオンラインで岩盤や水量などの画像を通して、相談するようにしています。

一どのようなICTを導入しましたか。

クラウドのサーバー、ビジネスチャットを導入しました。まずはチャットを運用しながらクラウドへのデータ移行を開始。従業員にはチャット用にスマートフォン、テレワーク用にノートパソコンを貸与しました。コロナ禍による緊急事態宣言や災害など、さまざまな事由により出社できなくなっても業務を継続できるよう導入に踏み切りました。

一クラウド化によるメリットはありましたか。

在宅ワークが可能になったことが大きいですね。ネット環境さえ整っていれば、いつでも業務を進めることができます。やり方などは本人の裁量に任せています。会社でしかできないこと、在宅でもできることに仕分けをするなど、仕事をこれまで以上に主体性を持って進めてもらえるようになりました。

チャットを併用することで現場、事務所、在宅スタッフの連携がスムーズになりました。急ぎ現場調査などが必要になったときは、その時点で最も近い場所にいるスタッフに連絡し、迅速に作業に取り掛かってもらうようにしています。また、アポイントなども共有できるのでケアレスミス防止に役立っています。工事や調査の報告書についても、現場で情報と写真などをクラウドに保存しておくことですぐに作成できるようになりました。

掘削データのクラウド化では、これまで周辺の地下水調査に相当な時間がかかっていた作業が、事務所に帰って資料を確認することなく、現場で掘削深度や水質の予測ができるようになり、現場主体のスピーディーな見積書作成や掘削、修復工事が行えるようになりました。



スマートフォンで写真を送信する現場スタッフ④と受信する升谷さん

一今後の展開について教えてください。

テレワークを推進し、休暇を取りやすくするなど、柔軟な働き方を進めることで新規採用にもつなげたいと考えています。コロナ禍収束後も、別の新たなリスク発生時への対応や、子どもを持つ従業員の働きやすさ向上の面から、テレワークは継続していく方針です。

従業員のITスキル向上が今後の課題と考えています。現在は外部にサポートをしてくれる人がいて、さまざまなシーンで助けてもらっていますが、一定の水準までスキルアップし、できる部分は自社で完結できるよう勉強会を開くなど具体的な対策を模索しています。

現場の声

総務部
升谷 純子さん



職場と自宅 業務を仕分け

2020年から週1.5日、テレワークをしています。クラウドを使って請求書や見積書、報告書などの書類を作成するのが主な仕事です。事務所と自宅のできる業務を仕分けし、自分のペースで仕事を進めることができます。例えば子どもの体調が悪い時などは、これまで会社を休んでいましたが、クラウドならいつでも作業できるので、子どもが眠っている時などに集中して請求書などの書類を作成。休むことはほとんどなくなりました。メイクやお弁当作りなど、出勤するためにかかる約1時間も家事に充てられるので助かっています。

事務所にいないとできない柱状図(ボーリング調査ごとにデータを記録していく特殊な地質断面図)作成も、将来的にはクラウドで作業できるよう会社に検討してもらっています。